

「カタツムリ」の名前の由来

童謡にも歌われる「カタツムリ」。陸に棲む巻貝の総称で、その種類は日本で800種以上とされています。

名前の由来には諸説ありますが、「カタ」は傘、「ツムリ」は巻貝を意味する古い言葉が語源とされています。

他に、殻から出ん（「出る」の意味）で「デンデン（出ん出ん）虫」。動きが踊りに見えるので「マイマイ（舞い舞い）」と呼ばれることも。

漢字で「蝸牛（かぎゅう）」と書くのは、動きやツノが牛に似ているからだと言われています。

カタツムリは、雨の日にアジサイの近くやコンクリート塀でよく見かけますが、これには理由があります。

雨の日に見かけるのは湿気を好むから。アジサイは、その大きな葉陰に身を隠すため。また、コンクリート塀にいるのは、貝殻の成分（石灰質）を舐めているのだそうです。

